

愛顔（えがお） つなぐえひめ

国体 パワーリフティング競技

報告・写真

IPF国際審判 物江 毅

今回で三回目の開催となる国体公開競技・パワーリフティング、本年は9月9日、10日の両日、愛媛県伊予市ウエルピア伊予体育館で開催された。選手の頑張りは勿論の事、少ないスタッフで懸命に大会会場を作り上げて下さった愛媛協会役員及びボランティアの皆さん、四国ブロックの役員の方々の皆さん、補助員を全面的に引き受けて下さった岡山大学関係者の皆さん、IPF & JPA公式器具を提供して下さい下さったザオバ社の羽田副社長、全国から参集した審判員各位のご尽力で、大変に雰囲気良く盛り上がった国体となった。

初日

女子の部

今回も出場者12名によるフォーミュラーポイント（以下F.Pとする）による順位付けとなった。

優勝は岐阜のノーギアの女王・可児理恵選手（52kg級）、F.P 446.49 和歌山大会こそ北村真由美さんに僅差の2位であったが、昨年の岩手大会に次いで国体二連勝に輝いた。

2位は昨年の岩手大会3位、まだJRの京都学園大学生・窓場加津紗選手（72kg級）F.P 425.43、3位には国体定連の三重・竹内あい選手（72kg級）F.P 383.43 という結果であった。順当な順位といえるであろう。

可児さんは毎回事であるが、ご主人がセコンドで甲斐甲斐しくサポートをしていた。いつ拝見しても感じが良いお二人であった。

59kg級

私は次のセッション66kg級の主審を指名されたため、このセッションは途中までしか見る事が出来ず結果のみ記載させていただく。

優勝は大阪の久保元人選手 T L 500kg得意の D L で 227.5kg を引き体重差で栄冠に輝いた。2位は神奈川の工藤統生選手 T L 500kg、3位に埼玉の井上卓選手 T L





492.5kgという結果であった。久保選手はJR時代から活躍している阪南大OB、お兄さんは久保匡平さん。井上さんは私同様TXPの会員でBPが特化して強いが今回は第一試技 147.5kgのみの成功であった。

66kg級

このセッションで私は主審を勤めさせていただいた。副審は北海道の高橋さん、岐阜の可児さん（上述の理恵さんのご主人）、T/Cは徳島の高井さんという審判クルーであった。残念ながら失格者が多く、エントリー記録トップの千葉・古清水選手と二位の東京木村琢磨選手が揃っ

てDLで三試技とも失敗、波乱の展開となった。

そんな中で三種目とも安定して強かった静岡の宮崎賀寿雄選手がTL 575kgで優勝、2位は昨年の岩手大会覇者・愛知の杉浦康宏選手でTL 560kg、3位は大健闘M1の島根・川島督司選手TL 555kg、DL 252.5kgはいずれもM1の日本新記録であった。川島さんがDL 252.5kgの白三判定を見た瞬間の笑顔がとても印象的であった。

74kg級

初日最後のセッションであった。優勝は神奈川の松尾賢太郎選手、男子ベストリフターにも輝いた。2位宮城の山本航平選手、3位沖縄・合田隆宏選手。優勝した松尾選手は体脂肪率10%以下と思われる筋肉質のビルドUPされた身体で「74kg級最後の試合で優勝できて良かったです。次回は階級を上げます！」と語っていた。このレポートを書いている段階で各選手の記録が手元になく、紹介できないが悪しからず。



二日目 83kg級

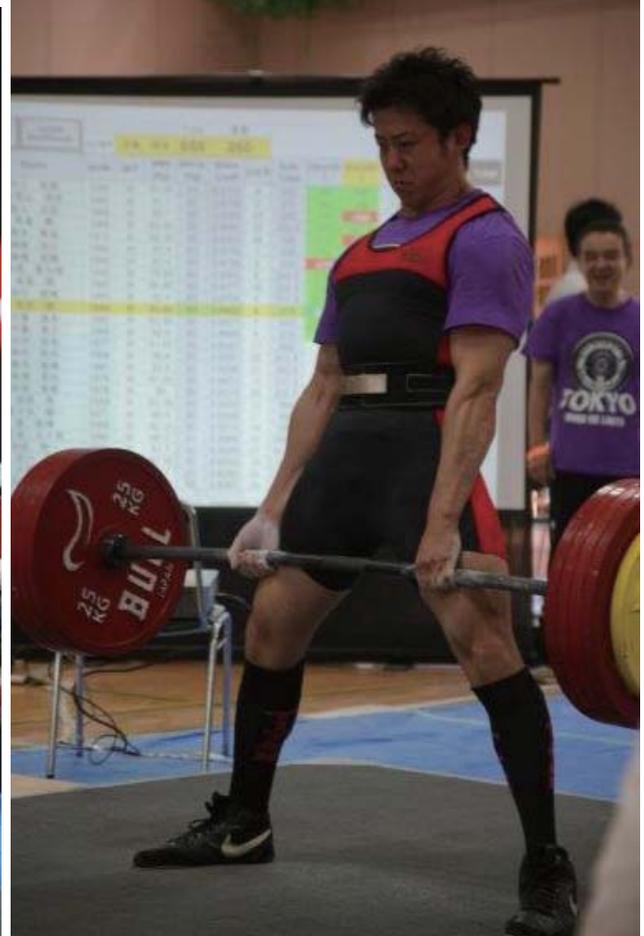
このセッションで私は陪審員を勤めさせていただいた。エントリー記録では大阪・大島逸生選手が二位以下を50kg離してダントツであった。2位以下は東京の永井肇選手や千葉の中島良介選手ら5名が12.5kg間にひしめき、接戦が予想された。

試合が始まるとS Qで大島選手が245kgでリード、以下島根の勝部選手、上述の永井選手が230kgで続く。永井さんは第二、三試技で240kgにいどみ、いずれも立上ったが足のロックが甘いという赤判定でやや出遅れた。

B Pでも大島選手は強く165kg STL405kg、以下上述の中島選手が160kg、永井選手が145kgと続く。中島さん、永井さんともSTL375kgで並び、体重は中島さんがわずかに50g軽い。中島さんはD Lに備え、B P第三試技をパスした。

DLに入り第二試技終了時点で中島・永井両選手はTL635kgで並び、大島選手は650kgで差は15kgに縮まった。第三試技大島さんが265kgに成功、二位狙いの永井さんは262.5kgに挑むが失敗、二位が決定した中島さんが270kgにいどみ失敗。優勝大島さん、二位中島さん、三位永井さんという事で決着した。

表彰式終了後中島さんと永井さんのツーショットを撮らせていただいた。お二人ともとても良い表情をしておられた。



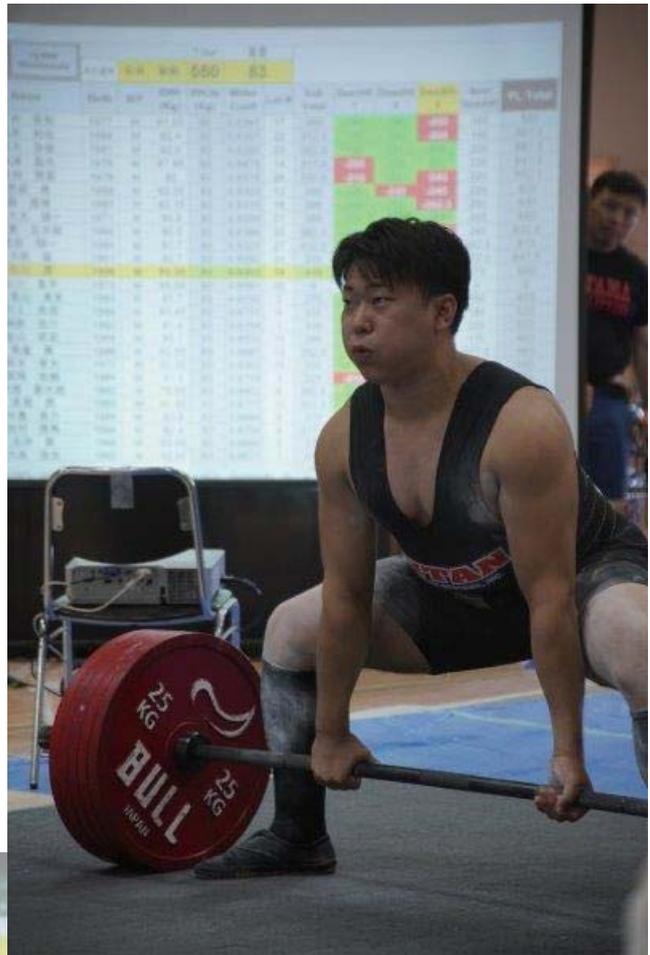
93kg級

83kg級同様陪審員であった。

エントリー記録トップの京都学園大生・古川潤選手がSQ第二試技で270kgに成功した時点で、勝負が見えたかというがあったが、沖縄の池田翔一選手がBPで162.5kgに成功し、STLで古川さん415kg、池田さん412.5kgと僅差であった。DL得意の古川さんは第二試技で275kgを引き、TL690kgとした。池田さんは250-262.5と成功し675kg、ただ、第三試技280kgの申請を270kgに変更し逆転には挑まなかった。二人とも第三試技は失敗、優勝古川さん、2位池田さんという結果となった。

3位には久しぶりの全日本大会出場となった北海道の「伝説の強豪」・佐々木健一選手が9試技全部成功で、225-170-265 TL660kgで入った。三種目とも第一試技は80%程度の重量で入り、第二、三試技で大幅に数10kgUPという戦略、「伝説の強豪」健在であった。

また、このクラスで8位に入った埼玉のMr. パー



フェクト・高木啓樹選手は今回も全試技成功白27個のパーフェクト試技を披露しTL587.5kgであった。

105・120・+120kg級

この階級が始まる前、6月の国体関東ブロック最終予選で、故障のため痛々しい試技をしておられた120kg級で過去国体二連勝の千葉の渡辺明彦さんに体調を伺った。

「まだ、回復しておらずBPは180kg程度だと思います」という答えが返ってきた。

試合が始まると、105kg級はエントリー順位通りの、優勝宮城の新藤選手TL687.5kg、2位千葉の作原選手670kg、3位岡山・大光選手660kgという結果となった。

120kg級の優勝は宮城の仲田選手TL725kg、渡辺さんはSQ255kg、かつて210kgにも成功していたBPは170kgどまり、DL250kg、TL675kgで2位、3位は神奈川の松澤選手637.5kgという順位であった。

+120kg級はエントリー記録トップの岐阜・宮本覚道さんが怪我のため出場せず、

優勝青森・秋山選手 TL642.5kg、2位滋賀・高橋選手 TL510kgという結果で、全セッションが終了した。

団体戦優勝は、一昨年の和歌山国体優勝の神奈川、2位千葉、3位大阪という結果で、神奈川は個人ベストリフターの松尾選手の受賞と併せて団体&個人ダブル制覇となった。

優勝インタビューで神奈川の大森聖子監督は「病床の浅間先生にも良い報告が出来ます！」と笑顔で語っていた。

初めて訪れた愛媛県、松山市&伊予市は道路が広く、街並みが綺麗で、大会期間中晴天が続いた事もあり、とても好印象を持った。

和歌山、岩手に続き、愛媛でも地元の皆様は国体PL競技を歓迎して下さり、大会を盛り上げようという心遣いを感じられた。

選手と大会スタッフの一体感で盛り上がったえひめ国体、この国体の伝統を次回の福井大会以降も是非とも継続してくべく、微力ながら今後も協力させていただこうと思えた大会であった。

出場選手並びに愛媛協会スタッフの皆さん、素晴らしい国体を有難うございました！！



写真上；愛媛国体を支えた JPA, 愛媛県協会、補助団の皆さん



写真右上；ユニフォームをそろえて、国体参戦、東京チーム

写真下；ポスターとパネル。試合とキャラクター、都道府県とキャラクター、競技をより身近に感じる作戦が。

